公益財団法人　国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

２０２５年９月

JINF
Japan Institute
for National Fundamentals

目　　次

1　全　般　・・・3

2　各軍等　・・・4

3　対台湾動向　・・・9

4　対日動向　・・・11

5　南シナ海動向　・・・16

6　軍事交流　・・・18

参考文献　・・・20

中国軍事動向月報：2025 年 9 月

２０２５．10．３
国家基本問題研究所　研究員　中川真紀

1　全　般

９月 3 日、中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会にて軍事パレードを実施、システム作戦能力・新領域戦力・戦略威嚇を重視した装備が公開された。

海軍では、海上試験中の空母福建が台湾海峡を通過し、南シナ海にて試験・訓練を実施した。22 日には、福建の艦上から電磁カタパルトを使用した発艦訓練の映像が公開された。

陸軍では、デッキカーゴ船を使用した北部戦区部隊の海上輸送訓練が、空軍では空中給油後の対地爆撃訓練の状況が報道され、台湾侵攻準備が着々と進展していることをアピールした。

台湾周辺においては、統合戦備警備パトロールに併せて海空統合訓練を実施したことを台湾側が発表し、訓練最盛期に入り訓練レベルを上昇させていることが確認された。

日本周辺では、3 日に尖閣諸島接続水域内で海警船 5 隻が同時に活動していることが AIS で確認された。3 日の中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会に備えて尖閣周辺での対応を強化していた可能性がある。これまで、日本漁船対応等で尖閣接続水域外側に増援の海警船が待機していたことは AIS で確認されているが、接続水域内に入域しての増援は初確認。AIS 信号が確認されたのは 3 日 1 回のみであり、海上保安庁の HP にも 3 日の接続水域入域は 4 隻になっているので AIS 信号の位置に誤差があるかもしれないが、情勢に応じて接続水域に入域して日本への対応を強化できる態勢を常にとっている可能性もあり、注視が必要。

南シナ海においては、スカボロー礁における資源保護区の設定や比公務船に対する放水が確認された。8 月、スカボロー礁周辺で比巡視船に対応していた中国海軍と中国海警船が衝突する事案が発生したため、比に対する強固な姿勢を実際に採ると共にそれを内外にアピールした可能性がある。

2　各軍等

（1） 全　般

○　高官の全人代代表罷免[1]

9 月 12 日、全国人民代表会議常務委員会第 17 回会議が閉幕、常務委員会公告で以下の 4 名の全人代代表の職務罷免が公表された。なお、() 内は筆者が他報道から確認した職務を追記

中央軍委後勤保障部軍人代表：張林（中央軍委後勤保障部部長、中将）
高大光（中央軍委後勤保障部政治委員、中将）

陸軍軍人代表：汪志斌（西部戦区陸軍政治委員→ロケット軍規律検査委員会書記、中将）

武警部隊軍人代表：王春寧（武警部隊司令官、上将）

○　高官視察[2]

新疆ウイグル自治区成立 70 周年祝賀活動に参加するためウルムチを訪問した習近平中央軍事委員会主席は 9 月 23 日、ウルムチ駐屯部隊の大佐以上の幹部、一部の模範隊員及び事務官を接見した。劉振立・中央軍委統合参謀部参謀長（上将）が同行した。

【コメント】

本年 8 月の習近平のラサ駐屯部隊視察時には張升民上将・中央軍委規律検査委員会書記が同行したが、今回は劉統合中央軍委参謀部参謀長が同行した。　軍高官に対する反腐敗を理由とした取締りが継続している可能性がある。

10 月 20～23 日に中国共産党第 20 期中央委員会第 4 回全体会議（4 中全会）が開催されるが、同会議で全人代代表を罷免された高官等に対する党としての処分が決定される可能性がある。同会議で取締りに一区切りつけ、新たな中央軍事委員会委員が指名されるのかどうか、会議での人事関連の報道に注目する。

○　中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年軍事パレード

9 月 3 日、中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会にて軍事パレードを実施した。

国防部報道官は、「参加装備は中国軍のシステム作戦能力・新領域戦力・戦略威嚇の実力を重視」と表明した[3]。

細部は国家基本問題研究所 HP「中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年軍事パレード」20250926 参照

（２）陸軍

○　北部戦区部隊の陸海輸送訓練

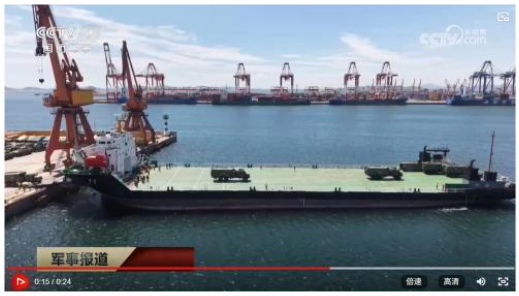
北部戦区部隊の陸海輸送訓練

○ 9月11日のCCTV「軍事報道」は、先頃北部戦区の輸送調整センターが陸海輸送訓練を実施したと報道
（資料源：[军事报道]202509121https://tv.cctv.com/lm/jsbd/index.shtml?spm=C95414.PuW4ufGzN1Pq.EOQ2kldafclu.11）

駐屯地から港湾まで鉄道移動

民間船に乗船

民間船に乗船



海上輸送

○ 映像から、北部戦区の重型合成旅団が駐屯地から鉄道で移動後に乗船して海上輸送を実施
○ 使用された船舶の形状（デッキカーゴ船）や部隊の装備から、北部戦区部隊が台湾侵攻時、海岸堡設定以降の増援部隊として機動する訓練を実施している可能性

（３）海軍

○　空母福建の海上試験・訓練

統合幕僚監部は「9 月 11 日、午後１時頃、海上自衛隊は、魚釣島（沖縄県）の北西約２００ｋｍの海域において、同海域を南西進する中国海軍空母「福建」、ソブレメンヌイ級ミサイル駆逐艦（艦番号「１３６」）及びルーヤンⅡ級ミサイル駆逐艦（艦番号「１５２」）の計３隻を確認した。」と公表[4]。

9 月 12 日、海軍報道官は「先頃、3 隻目の空母福建が台湾海峡を通過し、南シナ海にて試験・訓練を実施。今回の福建の地域をまたいだ試験・訓練は空母建造における通常の一工程であり、いかなる特定の目標に対するものではない」と公表[5]。

9 月 22 日、中国は 3 隻目の空母福建のカタパルトを使用した発艦訓練の映像を公開した[6]。

空母福建発艦映像公開

○ 9月22日、中国は3隻目の空母福建の発艦訓練の映像を公開
○ J-15T、J-35、KJ-600の3タイプの艦載機が電磁カタパルトを使用した初の発着艦訓練に成功と報道
○ 中国側の論表（韓維・中国航空学会艦載機分会総幹事兼海軍航空大学教授）
　電磁カタパルトにより、出撃効率の向上・固定翼早期警戒による作戦範囲の拡大・戦闘機の満燃料・全兵装発艦が可能になり総合作戦能力が大幅に向上
　この成功は中国海軍の「近海防御」から「遠海防衛」への戦略転換にとって重大な意義

福建艦上で発着艦訓練を行う艦載機（出典：中国軍網20250923）

・J-15よりアビオニスク、武器システムを強化
・強力な対艦対地攻撃能力を有する重型艦載機
・ｶﾀﾊﾟﾙﾄ・ｽｷｰｼﾞｬﾝﾌﾟ両方に対応

・空母編隊での制空権奪取を主任務とする中型艦載機
・ステルス機能により、敵の防空網を突破

・警戒探知・指揮誘導・目標指示・作戦調整等を実施
・固定翼機により監視や作戦統制範囲が拡大かつ持続し空母編隊の作戦能力が向上

（4）空軍

空中給油後の爆撃訓練

○ 9月12日のCCTV「軍事報道」は、先頃空軍部隊が空中給油後の対地爆撃訓練を実施したと報道　（出典：軍事报道20250912　https://tv.cctv.com/lm/jsbd/index.shtml?spm=C95414.PuW4ufGzN1Pq.EOQ2kIdafclu.11）

YU-20から空中給油を受けるJ-16

対地ミサイルを発射するJ-16

標的の装甲車

爆撃後の状況

○ J-16の行動半径から台湾への対地攻撃は空中給油を行う必要はなく、グアム米軍基地や日本・フィリピンに展開する米軍中距離ミサイルシステム等への攻撃をアピールした可能性

（5）海警

○　北太平洋公海漁業法執行パトロール[7]

9 月 10 日、海警 1303 と 1305 が北太平洋にて 31 日間の漁業取締法執行パトロールに従事するため、上海から出港した。今年で 10 回目のパトロール参加であり、北太平洋漁船臨検権を保有以降は 6 回目である。

出港行事の状況

（出典：中国海警局20250910）

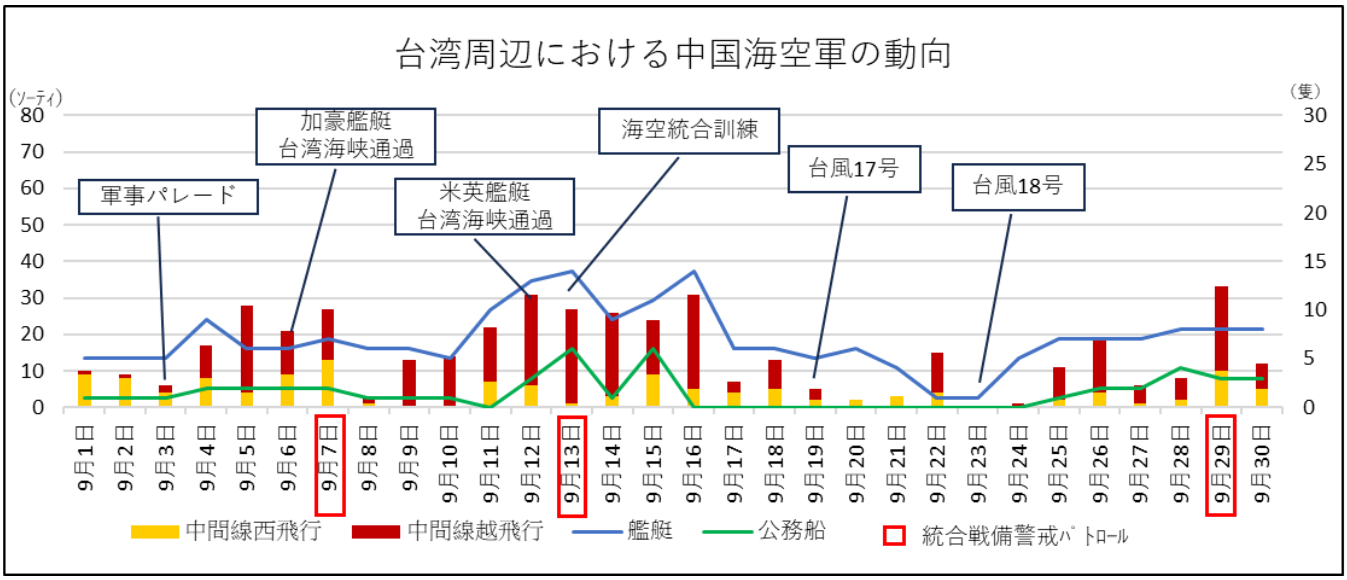
【コメント】

両海警船は尖閣任務を有する直属第 1 支隊所属であり、尖閣周辺海域でも確認されている。出港時の写真では甲板上にはヘリ及び無人機が確認された。昨年の 9 回目の同パトロールでは、海警艦載ヘリが初めて公海上を飛行し法執行活動を実施した。今回は北太平洋で無人機も使用したパトロールを実施する可能性があり、尖閣周辺空域でも無人機の活動が活発化する可能性がある。

3　対台湾動向

（1） 台湾周辺での軍の活動状況

○　中華民国国防部発表による台湾周辺における中国海空軍の動向



（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

9 月は中国軍機延べソーティー444（内、中間線超えが延べ 313)、中国艦艇延べ 210 隻、公務船延べ 45 隻が確認。

1 日における軍用機最大確認数は 33 ソーティー、最大中間線超え 26 ソーティー、海空統合戦備警戒パトロールは 3 回であった。

9 月 6 日、東部戦区報道官は、「6 日、カナダのフリゲート艦ケベックとオーストラリア駆逐艦ブリスベンが台湾海峡を通過し、挑発行為を行った。東部戦区は海空軍により、その全航行を監視警戒し、有効に対処した。カナダとオーストラリアの行動は誤ったシグナルを発し、安全保障上のリスクを増大させる。」と公表[8]。

9 月 12 日、東部戦区報道官は、「12 日、米駆逐艦ヒギンズと英フリゲート艦リッチモンドが台湾海峡を通過し、挑発行為を行った。東部戦区は海空軍により、その全航行を監視警戒し、有効に対処した。米英の行動は誤ったシグナルを発し、台湾海峡の平和と安定を損なうものである。」と公表[9]。

9 月 13 日、台湾国防部は「13 日、中国軍が統合戦備警備パトロール及び海空統合訓練を実施した」と公表[10]。

【コメント】

軍事パレードや台風接近の影響もあり、軍用機の活動は低調であった。

一方、海空統合訓練が実施された 13 日前後には艦艇・公務船の活動が活発となった。訓練最盛期に入り、訓練レベルを向上させている。

6 月以降、減少していた公務船の活動が 45 隻と以前の水準に回復した。3 日の軍事パレード関連の警備強化や台湾対岸での軍の訓練支援等の理由により、先月より増加した可能性がある。

（2） 金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 9 月 15、16 日に各 1 回、17 日に 2 回、計 4 回、中国海警 4 隻が金門周辺台湾制限水域への入域し、約 2 時間航行し出域した[11]。

9 月 28 日、海警東海分局報道官は「9 月以降、福建海警は金門付近海域において法に基づく法執行パトロール強化を継続しており、管理を強化し、禁漁明けの漁船保護活動を積極的に実施した」と発表[12]。

（3）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、9 月 11～12 日に東沙管轄水域で海警 3101 が[13]、30 日に東沙制限水域で海警 3103・3105 が[14]活動した。

【コメント】

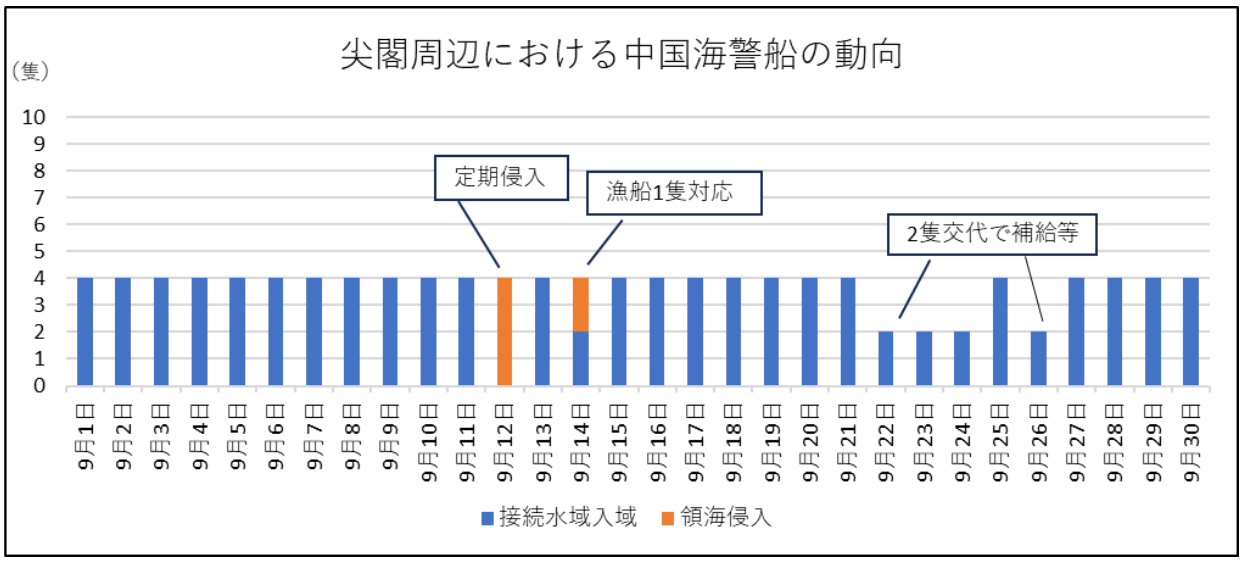
金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4 隻で台湾宣言水域に進入し 2 時間航行、というパターンで継続しており、9 月も同様の活動が確認された。特に 9 月は 3 日間連続での入域となったが、台風の接近前に入域のノルマを終わらせたいという意図もあった可能性がある。

東沙海域では頻度に大きな変化はないものの、これまで主に海警船 1 隻での活動であったが、30 日は 2 隻が同時に活動した。

4　対日動向

（1） 尖閣諸島周辺での活動状況

○　海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



（資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成）

9 月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。定期侵入は 1 回であった。

定期交代は 8 月 31 日に行われた。9 月 3 日の中国抗日・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会に備え、8 月中に交代したのであろう。

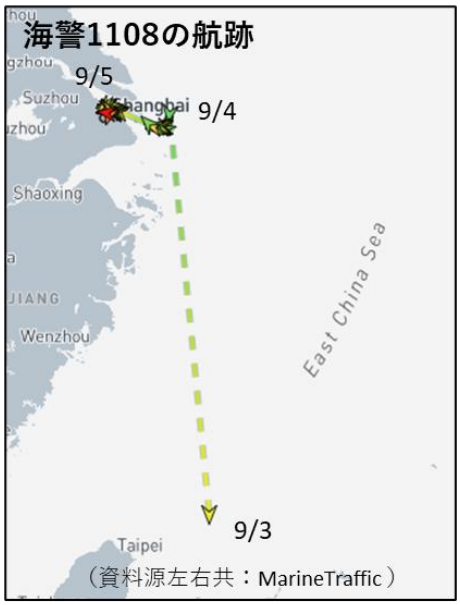
14 日、尖閣領海内で操業している日本漁船 1 隻に対し、海警船 2 隻が対応して領海侵入を行ったが、これに関する中国海警局報道官の発表は確認されなかった。

○　9 月 3 日の海警増強

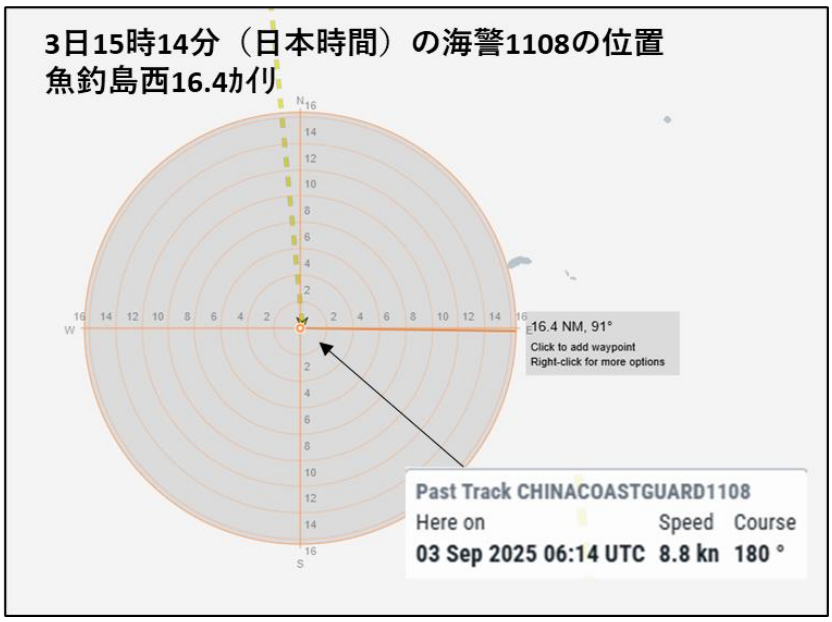
AIS によれば、次頁のように 3 日には 9 月上番の海警 1109，1302，1304，1307 に加えて、同じ直属第 1 支隊の海警 1108 が魚釣島西 16.4 カイリの位置で活動していた。AIS 信号が正確だとすれば、接続水域に 5 隻の海警船が同時に活動していたことになる。

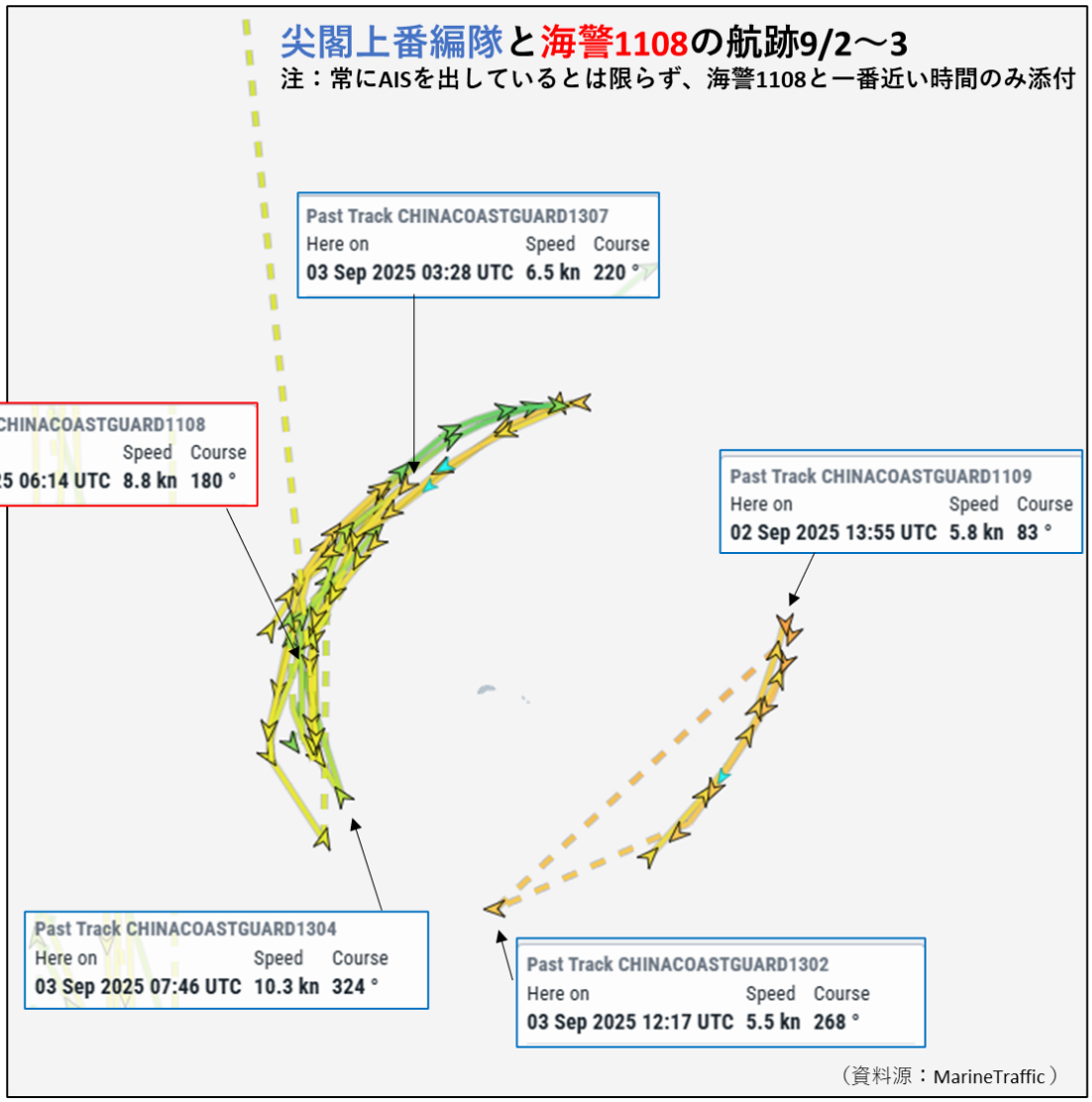
海警 1108 は 4 日には母基地の方に帰港していることから、記念大会に備えて尖閣周辺での対応を強化していた可能性がある。

これまで、日本漁船対応等で尖閣接続水域外側に増援の海警船が待機していたことは AIS で確認されているが、接続水域内に入域しての増援は初確認。AIS 信号が確認されたのは 3 日 1 回のみであり、海上保安庁の HP にも 3 日の接続水域入域は 4 隻になっているので AIS 信号の示した海警 1108 の位置に誤差があるかもしれないが、情勢に応じて接続水域に入域して日本への対応を強化できる態勢を常にとっている可能性もあり、注視が必要。



（資料源左右共：MarineTraffic）

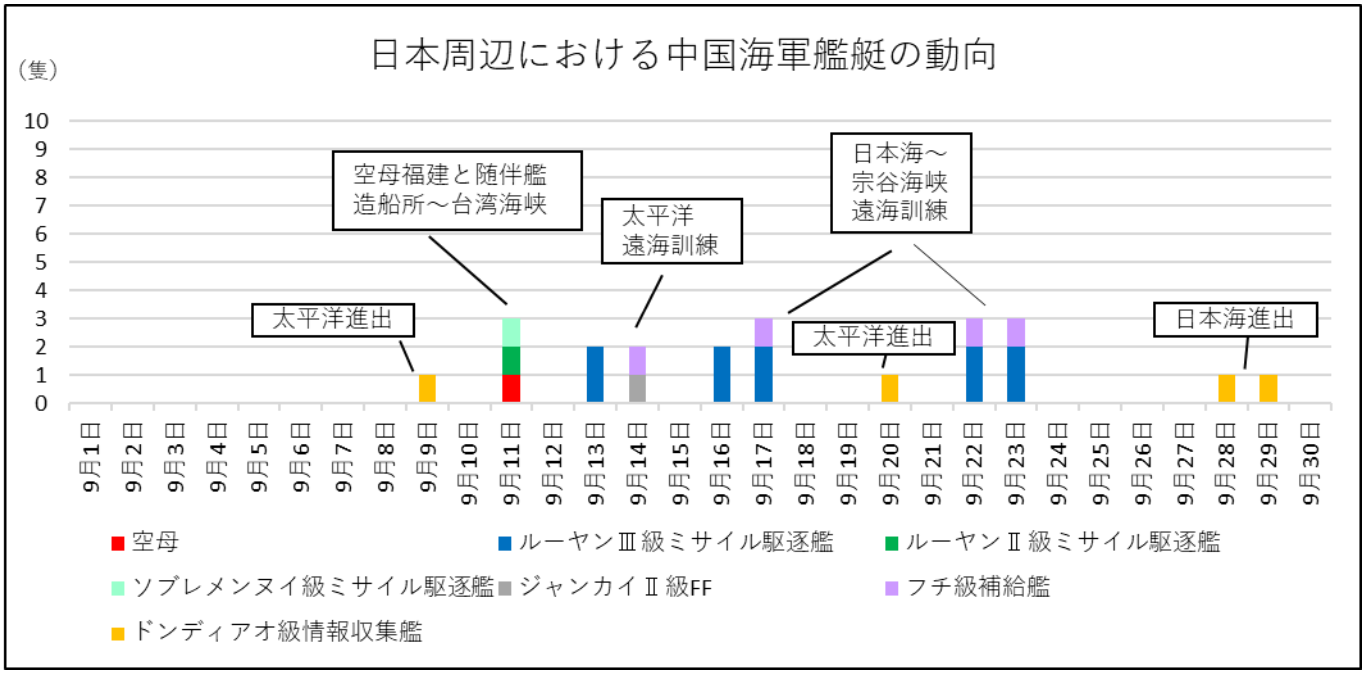




（資料源：MarineTraffic）

（２）日本周辺での軍の活動状況

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

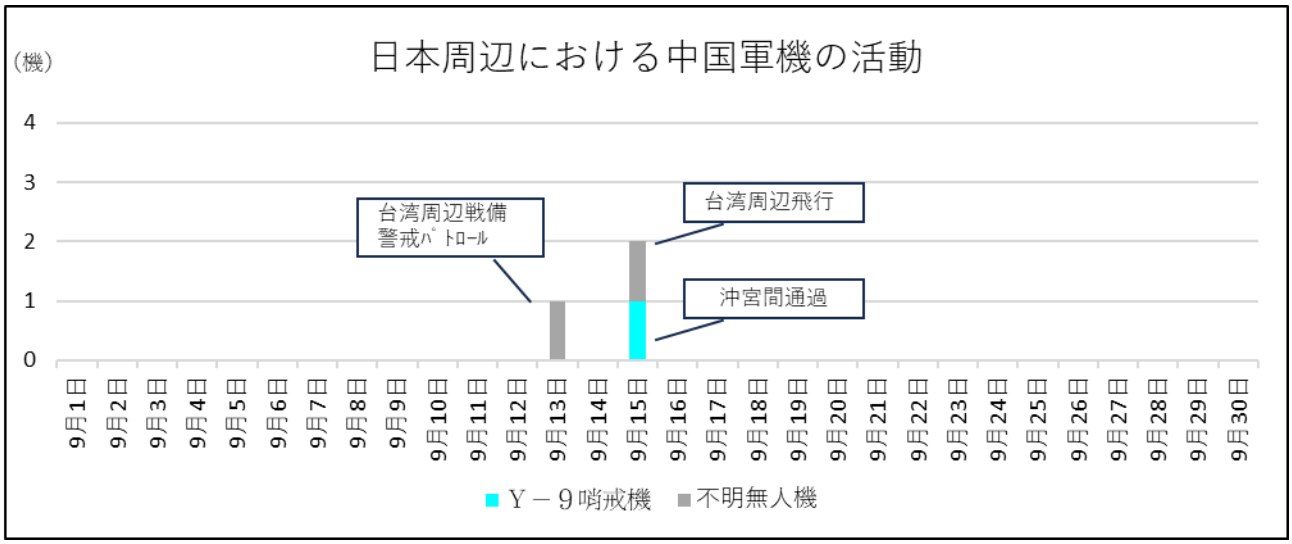
延べ 22 隻の活動が確認された。

空母福建については２各軍等（３）海軍の項参照。

太平洋に進出した情報収集艦及びフチ級補給艦と共に行動する艦艇群はいずれも東部戦区海軍所属であり、太平洋での訓練や情報収集を活発化させている。

一方、日本海に進出したフチ級を伴った艦艇群及び情報収集艦は北部戦区海軍である。宗谷海峡通過後の行動は不明であるが、日本海での情報収集、アラスカ方面での訓練、北極海航路開発等の可能性が考えられ、その行動範囲を拡大していることが窺える。

○　防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向

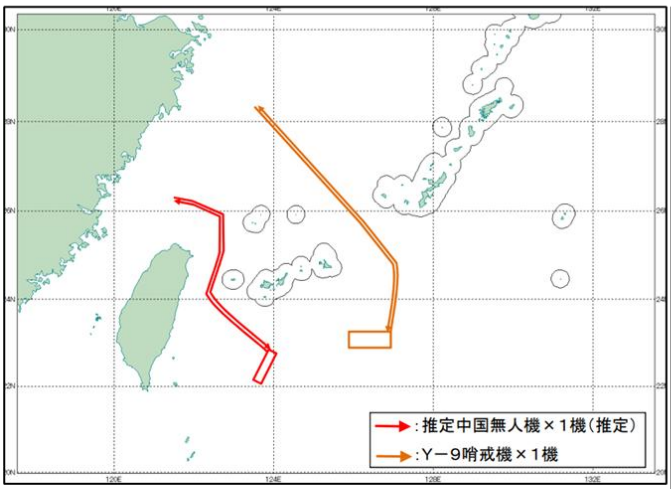


（資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成）

延べ 3 機の活動が確認された。

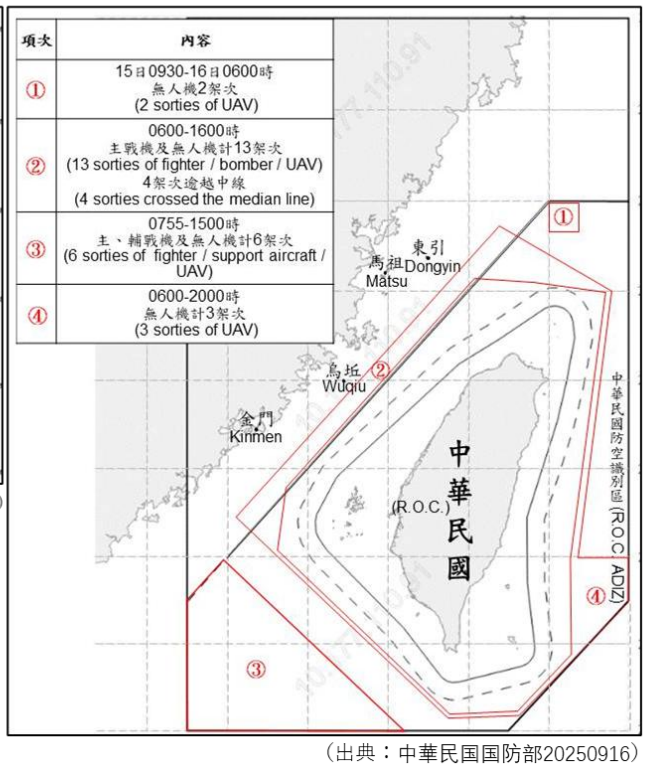
15 日の Y-9 哨戒機は下図のように、台湾周辺で活動した無人機と連携した可能性がある。

9/15の中国軍機航跡



（出典：統合幕僚監部20250915）

9/15の中国軍機航跡



（出典：中華民国国防部20250916）

（３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○　2026 年防衛省予算が最高額との報道について[15]　国防部定例記者会見 20250910

日本は軍備増強を加速し、「専守防衛」を越えた戦力整備をしているが、中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年に当たる今日、日本が侵略の歴史を深く反省し、軍事安全保障分野における言動を慎み、敵視の轍を踏まないよう要求する。

○　日本のレーザー兵器実戦化配備加速を警戒[16]　解放軍報 20250923

防衛省が本年度に艦載レーザー兵器システムの研究開発と試作を計画し、ドローンスウォームへ等新たな脅威へ対応を図っている。陸自も 10 キロワット級レーザー車を展示する等、研究・配備を加速しており、平和憲法を逸脱し、地域情勢に重大な衝撃を与える。

○　日本維新の会の憲法改正案での自衛隊を国防軍にする条項について[17]
国防部定例記者会見 20250925

日本が歴史の教訓を真摯に受け止め、平和の道を堅持し、実際の行動を以ってアジアの隣国と国際社会の信頼を得るように望む。

【コメント】

8 月に中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年記念大会を前に、非常に多くの日本関連記事が掲載されたため、9 月は数的には大幅に減少した。

但し、日本維新の会の憲法改正案を定例記者会見で取り上げる等、野党の動向にも注視し、個別に牽制を行っている。

5　南シナ海動向

○　南シナ海海域パトロール

◇　9 月 3 日、南部戦区報道官が「3 日、南部戦区海軍が南シナ海海域で定例パトロールを実施。比が域外国を引き込み、所謂『共同パトロール』を実施し、地域の平和と安定を破壊している。」と公表[18]。

◇　9 月 14 日、南部戦区報道官が「12～13 日、南部戦区が南シナ海海域で定例パトロールを実施。比が頻繁に域外国を引き込み、所謂『共同パトロール』を実施し、南シナ海で違法な主張を拡散させていることは地域の平和と安定を破壊している。」と公表[19]。

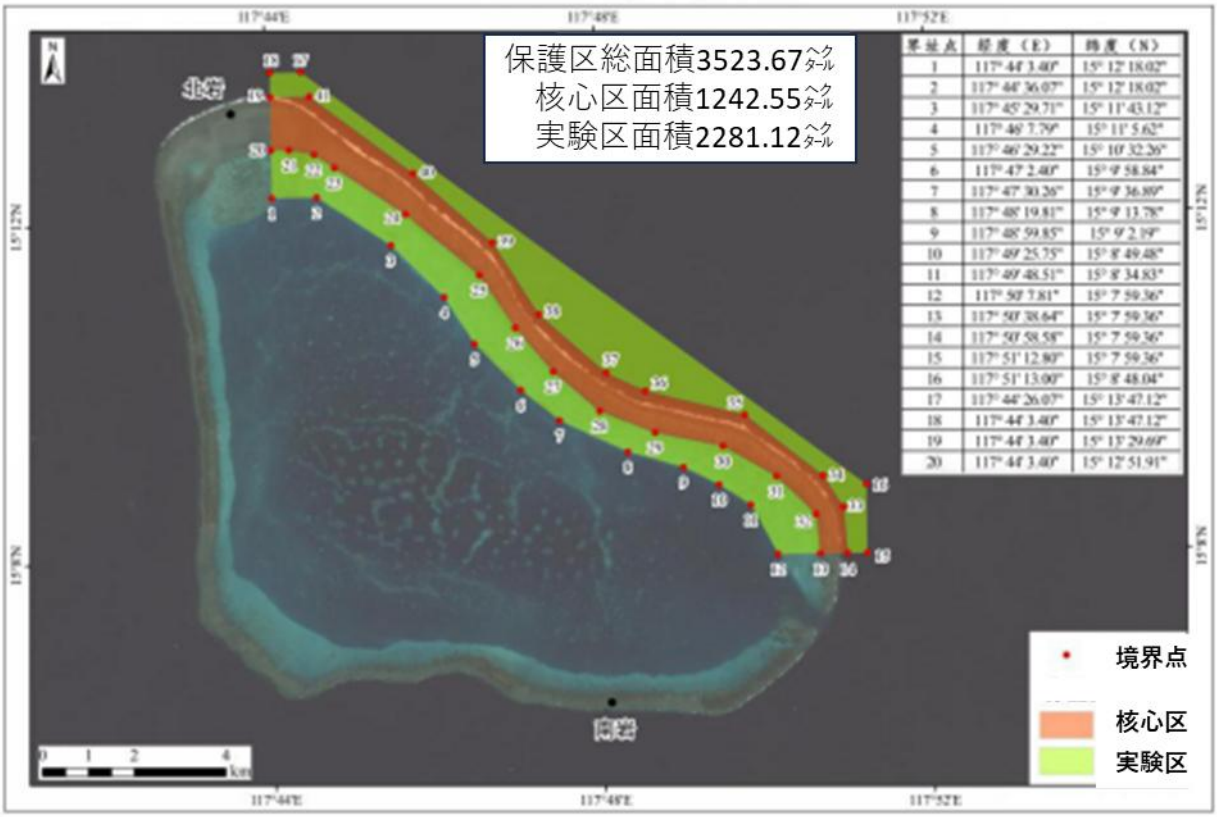
○　スカボロー礁

◇　国家級自然保護区を建設

9 月 10 日、中国国務院はスカボロー礁に国家級自然保護区を建設することを決定した[20]。

同日、国家林業草原局は、保護対象は主にサンゴ礁生態系であり、その面積・範囲は以下の通りと公布した[21]。

スカボロー礁自然保護区



界点	経度（E）	緯度（N）
1	117° 44′ 3.40″	15° 12′ 18.02″
2	117° 44′ 36.07″	15° 12′ 18.02″
3	117° 45′ 29.71″	15° 11′ 43.12″
4	117° 46′ 7.79″	15° 11′ 5.62″
5	117° 46′ 29.22″	15° 10′ 32.26″
6	117° 47′ 2.40″	15° 9′ 58.84″
7	117° 47′ 30.26″	15° 9′ 36.89″
8	117° 48′ 19.81″	15° 9′ 13.78″
9	117° 48′ 59.85″	15° 9′ 2.19″
10	117° 49′ 25.75″	15° 8′ 49.48″
11	117° 49′ 48.51″	15° 8′ 34.83″
12	117° 50′ 7.81″	15° 7′ 59.36″
13	117° 50′ 38.64″	15° 7′ 59.36″
14	117° 50′ 58.58″	15° 7′ 59.36″
15	117° 51′ 12.80″	15° 7′ 59.36″
16	117° 51′ 13.00″	15° 8′ 48.04″
17	117° 44′ 26.07″	15° 13′ 47.12″
18	117° 44′ 3.40″	15° 13′ 47.12″
19	117° 44′ 3.40″	15° 13′ 29.69″
20	117° 44′ 3.40″	15° 12′ 51.91″

◇　9 月 16 日、中国海警局報道官は「16 日、比公務船 10 隻以上が多方向からスカボロー礁領海に侵入したため、海警は警告・航路管制・放水等の措置を実施した。10 時頃、比公務船 3014 は度重なる警告を無視し、プロフェッショナルでない、危険な方法で故意に正常な法執行を行っている海警船に衝突した」と公表[22]。

放水する中国海警船と接触する比漁業水産局船舶3014

（出典左右共：中国海警局20250916）

◇　10 月 1 日、中国海警局は「9 月以降、中国海警はスカボロー礁領海と周辺区域の法執行パトロールを強化している」と公表[23]。

【コメント】

8 月 11 日に、スカボロー礁周辺で比巡視船に対応していた中国海軍と中国海警船が衝突する事案が発生し、中国側に死傷者が出ている可能性が大きいにも拘らず、未だに中国側から公式な発表はない。

スカボロー礁における資源保護区の設定や比公務船に対する放水は比に対する強固な姿勢を実際に採ると共にそれを内外にアピールした可能性がある。

6　軍事交流

（1）軍事交流

○　和諧使命-2025

9 月 5 日、中国海軍の病院船「丝路方舟」（シルクロードの箱舟）が福建省泉州を出港し、南太平洋およびラテンアメリカにおいて「和諧任務-2025」任務を遂行予定。「丝路方舟」は中国が独自に設計・建造した 2 隻目の 1 万トン級外洋病院船で、2024 年の就役以来初の海外任務となる。

隊員は主に南部戦区海軍の医療要員で構成され、聯勤保障部隊、北部戦区海軍、海軍医学大学からも参加。病院船は 14 の診療室と 7 つの補助診療室を備え、一般外科、整形外科、産婦人科、眼科など 60 種類以上の検査、治療、手術を行うことができる。船内には救急ヘリコプターが搭載されており、救助機能も備えている。

和諧使命は 2010 年以降、10 回にわたり実施され、これまでは病院船「和平方舟」（平和の箱舟）が担当。今回はナウル、フィジー、トンガ、メキシコ、ジャマイカ、バルバドス、ブラジル、ペルー、チリ、パプアニューギニアなど 10 カ国以上を訪問し、予定航海期間は 220 日間で、これまでで最長[24]。

同船は 19 日ナウルに到着し、7 日間の友好訪問を開始、ナウル警察部門と技能交流を実施した。中国海軍艦艇がナウルに寄港するのは今回が初めてである[25]。

○　米中国防相オンライン会談[26]

9 月 9 日、董軍国防相とヘグセス米国防省がオンライン会談を実施した。

董国防相は「衝突せず・対抗せずというのは双方の共通した認識であり、ベースラインである」としつつも、「中国が完全な統一を成し遂げるということは、阻止できない歴史の潮流であり、武力で独立を支援する・台湾を以って中国を制する、というような策謀と干渉は全て失敗するであろう。中国への牽制・威嚇・干渉は絶対に成功しない」と述べた。

○　第 12 回北京香山フォーラム[27]

9 月 17～19 日、第 12 回北京香山フォーラムが開催。100 以上の国・地域・国際組織の公式代表と学者・オブザーバー党 1800 人以上が参加。

また、開催に合わせて董軍国防相、張又侠中央軍委副主席は以下の通り要人と会談した。

董軍国防相：ロペス・キューバ革命軍大臣、ハリド・マレーシア国防相、ドシハ・カンボジア副首相兼国防相、マウン・マウン・エイ・ミャンマー国防相、カポフィ・ナミビア国防・退役軍人省相、マリザムンダ・ルワンダ国防相、シセ・セネガル軍参謀総長、ファン・ベトナム国防相、ラソ・ウルグアイ国防相、フィキ・ソマリア国防相、バトゥルット・モンゴル国防相、カンゲリン・ラオス国防相

張又侠中央軍事委副主席：チャン・シンガポール国防相、ロペス・キューバ革命軍大臣

○　第 6 回中ラテンアメリカ高級防衛フォーラム[28]

9 月 19 日、北京にて第 6 回中ラテンアメリカ高級防衛フォーラムが開催、18 か国のラテンアメリカ・カリブ海諸国が参加した。董軍国防相が出席し、中国・ラテンアメリカ運命共同体構築を訴えた。

○　董国防相と米下院代表団との会見[29]

9 月 22 日、董軍国防相は米下院軍事委員会トップのスミス議員を団長とする米下院代表団と会見した。

董国防相は、「各議員がゼロサムではなく、ウィンウィンの視点から米中関係を論じ、米下院軍事委員会が米国防戦略・外交政策への影響力を発揮し、干渉や制約を排除し、建設的な実務により両軍関係改善の条件を整え、米中の相互発展に積極的に貢献することを希望する」と述べた。

（2）共同訓練

○　中・ネパール陸軍共同訓練「チョモランマ友誼-2025」[30]

9 月上旬～中旬、中・ネパール陸軍共同訓練「チョモランマ友誼-2025」をネパールで実施。対テロ共同行動をテーマとし、今回で 5 回目。

5 日にチベット軍区を主体とした訓練部隊がラサコンガ飛行場から出発し、11 日間の訓練に参加した。

○　中露蒙共同演習「辺防合作-2025」[31]

9 月 8～9 日、中露蒙共同演習「辺防合作-2025」が中国の満洲理で実施。これは国境警備部隊が参加する初の三か国共同演習である。

国境地帯のテロ破壊活動対処をテーマにし、共同指揮所を設置し、共同偵察・打撃等の訓練を実施した。

○　中タイ空軍共同演習「鷹撃-2025」[32]

9 月中旬～下旬、中タイ空軍共同演習「鷹撃-2025」がタイで実施。中国側は多種の軍用機と防空部隊が参加。

【コメント】

米中国防相会談や、董国防相が米議員団に「建設的な実務により両軍関係改善の条件を整え」るよう要望する等、台湾では妥協しない前提で、米との協調を模索する姿勢を見せた。

一方、ナウルに初の中国艦艇を寄港させ、中ラテンアメリカ高級防衛フォーラムを開催する等、南太平洋や、米の裏庭と言えるラテンアメリカへの影響力の強化を図った。

【参考文献】

1　全人代網 20250912
http://www.npc.gov.cn/npc/c2/c30834/202509/t20250912_447741.html
2　中国軍網 20250924
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250924/0ab8de96216e4d00ad20b2a354f15aff.pdf
3　国防部網 20250910
http://www.mod.gov.cn/gfbw/xwfyr/yzxwfb/16408826.html
4　統合幕僚監部 20250911
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2025/p20250911_01.pdf
5　国防部網 20250912
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16409149.html
6　国防部網 20250922
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16411251.html
7 中国海警 20250910
https://www.ccg.gov.cn/tt/202509/t20250910_2832.html
8　国防部網 20250906
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16408161.html
9　国防部網 20250912
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16409406.html
10　中華民国国防部 20250913
https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=84893&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf
11　海洋委員会海巡署 20250917
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165932&ctNode=650&mp=999
12　中国海警局 20250928
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202509/t20250928_2848.html
13　海洋委員会海巡署 20250913
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165912&ctNode=650&mp=999
14　海洋委員会海巡署 20251001
https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=166026&ctNode=650&mp=999
15　国防部網 20250910
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16408797.html
16　解放軍報 20250923
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250923/d25f2aef6e2891b600c537467eea0b22.pdf
17　国防網 20250925
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16411998.html
18　南部戦区微信 20250903
https://mp.weixin.qq.com/s/jqrZSKE65QOZZkYYYbPUhA?scene=1&click_id=10

19　国防部網 20250914
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16409538.html
20　中国中央人民政府 20250910
https://www.gov.cn/yaowen/liebiao/202509/content_7040002.htm
21　央視網 20250910
https://news.cctv.com/2025/09/10/ARTI921dG9DRv2muTjJbZcB2250910.shtml
22　中国海警局 20250916
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202509/t20250916_2840.html
23　中国海警局 20251001
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202510/t20251001_2849.html
24　解放軍報 20250906
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-09-06&paperNumber=03&articleid=962762
25　解放軍報 20250920
https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250920/97d3472f53119e7185277c3d3c2c33eb.pdf
26　20250910
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16408890.html
27　国防部網 20250918
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16410386.html
28　国防部網 20250919
http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16410622.html
29 中国軍網 20250923
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-09-23&paperNumber=01&articleid=963842
30　環球網 20250905
https://mil.huanqiu.com/article/4OCTXier6QK
31　中国軍網 20250909
http://www.81.cn/yw_208727/16408601.html
32　中国軍網 20250915
http://www.81.cn/yw_208727/16409764.html

中国軍事動向月報　２０２５年９月

２０２５年１０月６日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093
東京都千代田区平河町２－６－１
平河町ビル５階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。